

第 64 回市民事業専門委員会（市民事業現場訪問）の活動結果報告

次のとおり、市民事業支援補助金交付団体の活動現場を訪問し、視察を行うとともに、活動参加者への聞き取りを行った。

- 1 森のなかま 2012 活動現場の訪問（秦野市堀山下）
- 2 なかい里山研究会 活動現場の訪問（中井町井ノ口）

1 市民事業現場訪問行程表

時間帯	場所	内容
10:00	渋沢駅 北口	集合
10:00～10:20	ジャンボタクシー	移動
10:20～11:20	森のなかま 2012（高度化 森林・資機材） （秦野市堀山下）	活動現場の視察
11:20～11:30	ジャンボタクシー	移動
11:30～12:30	近隣の飲食店等	昼食
12:30～13:00	ジャンボタクシー	移動
13:00～14:00	なかい里山研究会（高度化 間伐） （中井町井ノ口）	活動現場の視察
14:00～14:30	ジャンボタクシー	移動
14:30	秦野駅 南口	解散

2 位置図



3 概要

(1) 森のなかま2012 (秦野戸川公園内) (森林の保全・再生/高度化 補助申請額 147 千円)

対応者：宮下会長

- ・秦野戸川公園内の山岳スポーツセンター入口において、団体の活動内容等の説明を受け、作業現場の視察を行った。
- ・作業現場視察中、同園内で活動している補助団体の「戸川森づくりの仲間」会員に遭遇したため、「戸川森づくりの仲間」の作業現場も見学させてもらい、山岳スポーツセンター会議室にて質疑等を行った。

(山岳スポーツセンター前)



(森のなかま 2012 作業現場)



(山岳スポーツセンター会議室)



(戸川森づくりの仲間)



【委員所感の集約】

- ・会員 21 名中、参加するメンバーが固定化されており、将来の活動の継続性に課題がある。
- ・秦野戸川公園で実施している活動だが、水源林としての整備と、都市公園としての景観に配慮した整備の方針・方法（下層植生の刈り払いの程度など）については、管理者である県公園協会と調整する必要がある。
- ・作業現場にのぼり旗がなかったのが残念。水源環境保全税を活用している取組であることを PR し、県民理解の促進、会員拡充に繋げて欲しい。
- ・作業の仕方、安全性に欠けている部分があったので、現場で指導を行った。（スギを伐採する際の注意事項、先折れした木や折れ曲がった木を伐採する際の注意事項など）技術が高くて、常に危機管理に対する意識を持つことが必要である。

(2) なかい里山研究会 (鴨沢ふれあい小屋) (間伐材の利活用促進/高度化 補助額 304 千円)
対応者：鈴木会長ほか

- ・団体の活動内容等の説明を受け、作業現場(炭焼き小屋の炭だし、炭の切断、薪割り、木酢液蒸留、竹細工など)の視察を行った。
- ・作業現場確認後、小屋内で質疑等を行った。



【委員所感の集約】

- ・会員同士のコミュニケーションがよく、それぞれが楽しく活動している様子が伺え、雰囲気が良いが、会員の高齢化という課題がみられるので、後継者として若手の会員獲得に努力してほしい。
- ・薪や炭の販売により、一定の収益を上げており、炭焼きや薪割りなど丁寧な仕事ぶりが伺える。ただ、活動を賄う潤沢な収益にまでは至っていない様子。キャンプ施設への薪販売、イベント・体験教室での更なる活動PRなどで収益アップが望まれる。
- ・補助金を活用して機械化を進めることで作業が効率化されており、市民事業支援補助金の有用性を感じた。現在の制度では、該当とならない資機材の拡充要望もあった。資機材については、望めば切りがないが、補助対象の考え方などについて今後の検討課題。

団体名	なかい里山研究会
記載者	増田清美

市民事業現場訪問ヒアリングシート

訪れた現場にしずくちゃんの幟旗が掲げてあった。あまり人の通らなそうな場所ではあるが、補助団体としての意識が反映されていると感じた。

会員23名の内、女性は6~7名というが、役員の中に女性が入っていないのは残念だが、会員となったらやめないというのは、居心地の良い会であり仲間同士のコミュニケーションが良いのではないかと思う。

新しい人も少し入ってきているというが、29年度の申請事業の概要では会員数が24名とあり、当日配布された資料には23名とある。新旧が交替したということ？

炭、薪、ホダギ販売で年間100万円ぐらいの収入になるそう。会の活動では十分ではないが限度という。会員が増えればもっと収入をアップさせられるのか。

市民事業支援制度への要望では、畑を酸性土壌にするため竹炭を粉にして撒くが、粉にする機械が欲しいという。現在の資機材には該当しないものであり、今後、どのような資機材が必要かも含め、資機材について検討課題としても良いのではないか。

補助金終了後の自立化に関して、具体的な話は聞けなかったが、皆さんが楽しみながら活動している姿に、継続してやっていくのではないかと思った。

活動状況（順調に行っている点、苦勞している点）、
活動の効果・成果、
今後の課題・展望（組織、活動内容）、
補助終了後の自立化、
支援制度への要望など

団体名	なかい里山研究会
記載者	青砥航次

市民事業現場訪問ヒアリングシート

○ 活動状況

メンバーの方々がそれぞれ楽しんで活動しておられ、雰囲気の良い団体である。

○ 活動の効果

活動の幅が広く、生産品も多種あり里山再生の活動として模範的であるように見えた。

○ 今後の課題・展望について

生産品の量に限りのあるものの、地域のイベントなどで啓発・販売の努力をされていて、一定の認知度がある。

メンバーが高齢化していて、労力を要する作業に支障を来していると言うものの年齢層の幅はあり、上記啓発活動を通して今後新たに加わるメンバーの獲得にも期待できる。

○ 補助金終了後の自立化

経営的には参加するメンバーの活動することによる喜びを金銭に換算できない利益として加えれば成り立っているとの印象を得た。

作業に要する機材は、望めば切りがないが最低限揃えることができていると思われるし、メンバーの創意工夫の意欲も高いように見受けられた。

活動が軌道に乗っていることもあり、認知度が更に高まるにつれて新たな支援先を獲得できる可能性もありうる。

活動状況（順調に行っている点、苦勞している点）、
活動の効果・成果、
今後の課題・展望（組織、活動内容）、
補助終了後の自立化、
支援制度への要望など

団体名	なかい里山研究会
記載者	服部俊明

市民事業現場訪問ヒアリングシート

1活動の目的・

手入れがされず荒廃が進む里山の森林の管理・保全を目的に結成された団体。

2現状

- 会員23名(中井町11名、平塚・二宮・小田原・横浜・川崎など12名)で、第2金曜日・土曜日が活動日
- 販売収益は、森林の整備により発生する木材や竹を薪や炭、シイタケ原木(250円/本)として積極的に販売している。炭の主な販売先は、11月に開催される山北町の「紅葉まつり」に400kg(200円/kg)を出荷。クヌギの薪は、暖炉用として販売(10,000円/0.8㎡…軽トラック1台分)している。年間100万円程度。楽しみながら売っているとのこと。
- 竹炭の生産や木酢液の蒸留にもチャレンジしている。
- 仲間意識をもって和気藹々と活動している様子がうかがえた。

3問題・課題

- 会員が高齢化してきており、後継者の確保が課題である。体力の衰えを補助金を活用して機械化することで補っている。自らイベント等を開催して活動のPRを行い、若手の会員獲得に努力してほしい。
- 広葉樹の大半が大径化してきており、強風により根倒しとなり土砂の崩壊の危険がある。このため、会として大径木を伐採して、跡地にクヌギ・コナラを植林したいと考えている(伐採しても切株から芽が出てこない)が、その後の下草刈り等の手入れが必要となるため、現状では積極的に取り組めない状況にある。
- 年間100万円程度の売り上げがあり、会を維持していくための資金は確保されていると思われるが、クヌギ以外の薪は、あまり買い手がなく、在庫が溜まる傾向にある。キャンプ施設に販売するなど販売先の開拓が望まれる。

団体名	なかい里山研究会
記載者	林 義亮

市民事業現場訪問ヒアリングシート

- ・ 会員の高齢化という諸団体共通の課題が同会でも見られたが、会員の拡充に鋭意努めるというより、今集っている仲間たちの、同じ趣味、活動目的を介した「交流の場」という印象を受けた。それはそれで意味のあることだが、中長期的にみると問題なしとしない
- ・ まき、炭、木酢液など活動で得られた成果物を販売して、一定の収益を上げている。ただ、グループの活動を賄えるほどの潤沢な収益を得るまでには至っていないようだ。積極的に販路を開拓するというより、ロコミに頼るなどの地道な手法をもっばらにしている様子。いろんなイベント、成果物を利用した体験教室などを通じた活動のもう一段のPRが求められよう。ただ、確かな注文主が居るのも確かで、炭焼きや薪割りなど丁寧な仕事ぶりをうかがわせる
- ・ 作業の効率化に果たす、水源環境保全税の補助金を活用した資機材の利便性を強調。あらためて補助金制度の有用性を感じさせた。竹材のチップ化などのため資機材の拡充要望は蓋然性を感じた

活動状況（順調に行っている点、苦勞している点）、
 活動の効果・成果、
 今後の課題・展望（組織、活動内容）、
 補助終了後の自立化、
 支援制度への要望など

団体名	森のなかま2012
記載者	増田清美

市民事業現場訪問ヒアリングシート

秦野戸川公園全体を見ると、うっそうとしていて手が入っていない状態である。整備箇所は下草刈りがされていて、整備が進んでいる様子がうかがえた。訪問当日はイベントに使用するという木の伐採中であった。この間伐材を使い公園祭りのイベント会場で子供たちに「水源環境税を使っている」と教えるとのことだが、具体的にどのようにするのか、また、過去に実施していたならその反応が知りたかった。

21名の会員の内、作業に参加するのは7~8名と固定化されており、増やす方法としてバーベキュー等をして12期生に声を掛けているようだ。29年度の活動回数12回、参加者数120人を目標に掲げているが、固定化が改善されなければ難しい状況ではないか。

森林インストラクターとして、技術をボランティアに指導、また修得した技術の勉強の場という意識があり、森林整備等へのレベルの高さはある一方で、期生毎の活動が主で横繋がりが希薄に見える。

イベント会場では幟旗を掲げるという事だが、作業現場に幟旗を掲げていなかったのが残念。場所的に難しいかも知れないが、近隣住民や登山する人たちへのPRとして有効ではないかと思う。

補助金について訊ねると「必要としない」という返答が何を指しているのか。

森林整備に対して公園管理者側と意見の違いもあるようだが、修得した技術を活かせるよう意見交換して、森林整備事業を発展させてほしい。

質疑応答の時に、他の委員から現場で伐採している状況から「安全面」に対する意見があった。技術を習得し、指導する側でもあるがゆえに、慣れが生じてしまうこともあるのではないかと感じた。危機管理に対する意識を持ち、常に謙虚でなくてはならない。

山が好き、森が好きという前提の上で団体の活動が行われ、市民事業支援補助金が活用されていることを改めて感じた。

活動状況（順調に行っている点、苦勞している点）、
活動の効果・成果、
今後の課題・展望（組織、活動内容）、
補助終了後の自立化、
支援制度への要望など

団体名	森のなかま2012
記載者	青砥航次

市民事業現場訪問ヒアリングシート

○ 活動状況

メンバーの方 それぞれ意欲的に取り組んでいられるように見受けられた。
メンバーの固定化が将来への継続性に心配がある。

○ 活動の効果

県立秦野戸川公園の中の一部の管理委託を受けている形であるが、ボランティア団体
ならではの活動への思いに大きなものがある。

提案型の活動として意義のあるものであると思うが、施業の方針、方法について公園
管理者とのすりあわせが十分ではない印象があった。

このことについては、公園管理者である公園協会の話も聞きたかった。

○ 今後の課題・展望について

近隣で、森づくりの会（森林インストラクター13期生）が活動している。連携が取れ
ているようで、微妙な思いの違いもあるように思う。

公園管理者である公園協会、森づくりの会との情報交換を密に持ちながら推進するこ
とが大事である。

○ 補助金終了後の自立化

機材的には支障なく活動できている。ランニングコストは管理者からの委託料メンバ
ーの会費等でまかなえるとのことで当面の活動に支障はないと思える。

問題があるとすれば、将来的にメンバーの新陳代謝がないための衰退がおきると考え
られることである。森林インストラクターの組織の中で解決の方向を見つけてほしい。

活動状況（順調に行っている点、苦勞している点）、
活動の効果・成果、
今後の課題・展望（組織、活動内容）、
補助終了後の自立化、
支援制度への要望など

団体名	森のなかま2012
記載者	服部俊明

市民事業現場訪問ヒアリングシート

1活動の趣旨

この会は神奈川県森林インストラクターの2012年卒業生の集まりで、間伐等の現場指導に役立てるための研鑽の場として自らの知識や技術のスキルアップを図っている。

また、整備後は、自然観察の森として市民等に利用してもらい、案内役としての役割を果たしたいとのことである。

2現状

○ 活動エリアは都市公園の自然観察の森となっているが、近くにオオタカの営巣地がありこれまで手入れができず、スギ林は陽光があたり暗く、広葉樹の林はブッシュ化している。現在は、オオタカの営巣期を除き、林縁を中心に整備が進められている。

○ 参加者に安全チェックシートを提出させ、当日の体調などをチェックするとともに準備体操を実施している。また、当日の作業内容や注意事項を説明してから作業に取り掛っている。

3問題・課題

○ 現在進めている林縁の整備は、風道をつくることになり、風倒被害を助長するおそれがある。

○ 都市公園として、多くの県民等が利用する施設であることから、下層植生の伐採はある程度やむを得ないところがあるが、水源林の森の整備であることから、どの程度まで景観に配慮して下層植生を刈り払うのか、公園管理者と調整する必要がある。

○ 会員21名、当日の参加者は9名であった。活動する会員が固定化してきており、より多くの会員に活動に参加してもらえる工夫が必要である。

4注意事項

○ 12cm程度のスギを伐採していた。短いロープを伐倒方向に引っ張っており危険である。径級が大きくないため、チルホール等の器具を使用する必要はないが、長いロープを使い、伐倒方向に牽引する力が働くよう角度を変えて引っ張ること。

○ かがり木処理に苦慮していたため、元口をずらして倒す方法を指導した。

○ 雪や風などで先折れした木は、伐採すると勢いよく倒れ大きく跳ねるため、伐採者が退避する場所を事前に確認し、確保しておく必要がある。また、折れ曲がった木は、繊維状に勢いよく裂け、重大な事故を引き起こす危険があることから、追い口の上部をあらかじめロープで縛って伐採するなどの措置が必要である(現地にて指導)。

5その他

この団体は、森林インストラクターとしてのスキルアップを目的として、当該森林において活動している団体であり、森林インストラクターとしての本来活動や年齢等により、当該地での活動ができなくなった場合は、後輩のインストラクターにバトンタッチすることを考えており、活動の自立化に向けた財源確保の取組は特に行っていない。

団体名	森のなかま2012
記載者	林 義亮

市民事業現場訪問ヒアリングシート

- ・「観察の森」という公園名にふさわしい森林の保全・再生に取り組む活動の成果は随所に見られた。ボランティア精神がないと続けられない価値ある活動だと感じる。ただ、対象区域はかなり広大で、「参加人員が固定化している」とのメンバーの所感を踏まえると、前途は多難というほかない
- ・ 同地域の保全・再生活動を県森林インストラクター13期生で構成される「戸川森づくりの仲間」も一緒に行っている。相互の作業上の連携は格別なされていないように見受けられた。共同作業の可否を尋ねたところ、この作業は期ごとの卒業生の取り組みであり、インストラクターOB総体の作業はまた別に行っているなどという説明があった。期ごとの「横のつながり」を重く見たものだろうが、現場での会話を聞いてみると、柔軟な対処の可能性を感じなくもなかった
- ・ 県公園協会が対象区域の森林をどう育てようとしているのか、公園の将来像をどう描いているかという点について、かねてから意思疎通を図っておく必要がある
- ・ 同地域の森林・保全再生事業が県の水源環境保全税を活用している取り組みであることをこれまで以上にPRしていく必要がある。県民の理解も深まるし、会員の拡充につながる可能性もあろう

活動状況（順調に行っている点、苦労している点）、
活動の効果・成果、
今後の課題・展望（組織、活動内容）、
補助終了後の自立化、
支援制度への要望など